

インターバンクの声（2014年10月29日）

昨夜のニューヨーク市場は、アジア市場とロンドン市場が米連邦公開市場委員会（FOMC）を控えて穏やかな相場展開となった後、序盤は9月の米耐久財受注と製造業受注が大幅に市場予想を下回ったことからドルは主要通貨に対し大きく値を下げてしまった。しかし、その後は10月の米消費者信頼感指数が7年ぶりの高水準となり、リッチモンド連銀製造業指数も4年ぶりの強い数字となったことで反発を見せた。米株式市場は、まるで序盤の弱い耐久財受注や製造業受注はなかったかのように、企業の好決算や消費者信頼感指数の強い数字に呼応するように大きく値上がりしたが、ドルは序盤の下落前の水準を回復するには至らなかった。結果的に主要通貨は前日から大幅にレベルを変えることにはなっておらず、後は米 FOMC が債券買い入れプログラムの終了後、利上げ時期を示すことがない場合に、市場がどういう見立てになっ
ていくのかが売り買いの鍵になるだろう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。